

京都の福祉

シェアセ運ぶ情報誌

574
2018年
11月

Contents

- 切れ目のない支援を目指して
～矯正施設退所者等への支援の現場から～
- 地域ニーズに応じて始まった
在日フィリピン人の介護現場の就労支援
くらしをつむぐ
夢中！熱中！ふくしびと



もえきさ

本年6月より大
阪北部地震、西日

本豪雨、台風21号、24号、北海道胆振
東部地震と、日本列島は相次ぐ災害に
見舞われ、現在も避難生活を余儀なく
されている人が居る。京都府内を含む
尊い命が数多く失われた。心よりご冥
福をお祈りしたい▼全国各地からボラ
ンティアの応援が寄せられ、京都府内
をはじめ被災地社協は、災害ボラン
ティアセンターをいち早く立ち上げた。
被災者・災害弱者の「助けて」の声を
積極的に「キャッチ」し、支援につな
げる努力を続けている。被災地が復興
を遂げるためには、公的支援を土台に、
コミュニティによる支えがカギとなる
▼ところで、地域には、生活困窮に陥
り孤立状況にあるなど生きづらさを抱
えている人が多く居る。しかし、災害
の場合と異なり、問題が見えにくく、
「努力不足」など個人の問題と見られが
ちだ。福祉関係者でさえ認識が十分で
ない場合がある▼本当に個人の問題だ
るか。貧困は病気や失業などの要因
によって起こりうる。災害と同様、誰
にも起こりうるのだ。そもそも、貧困
の世代間連鎖は個人の問題ではない。
貧困と孤立によって人としての尊厳が
保てない状況を見逃してはならない。
地域のなかで豊かに暮らすことができ
る公的支援とコミュニティづくりが必
要である▼京都府社協が2年間取組む
「生活困窮社会における地域づくり研究
会」は、まもなく終了する。最終報告
案に対し幅広く意見参加の機会を設け、
これからの地域づくりのビジョンを示
す予定である。

(T.S)

切れ目のない支援を目指して

矯正施設退所者等への支援の現場から

矯正施設（刑務所等）を退所した人が生活福祉資金の借入相談に来訪されることがあります。相談内容は、「住むところがない」「食事ができない」「働く先が見つからない」など、場合によってはすぐにでも何らかの支援が必要なケースも見受けられます。しかし、生活福祉資金は貸付であるためこういったケースに対応できることは限られています。ほかにもどのような機関や制度、支援があり、それがどのように機能しているのか、またどのような課題を抱えているのか、矯正施設退所者等が社会的に孤立しないための支援について今号では考えます。

被疑者の段階での支援 「入口支援」

～検察庁と社会福祉士会の連携～

京都社会福祉士会は、被疑者が勾留されている間に、京都地方検察庁からの依頼により被疑者の面談を行い、判断能力や障害の有無、今後の福祉サービスについての助言を行っています（図1）。福祉的支援が必要と認められた場合、福祉事務所や地域包括支援センター等それぞれに対応した福祉サービスに基づき、孤立を防ぐとともに再犯に至ることを防ぎます。

一方、社会福祉士の助言の必要性は検察庁が判断するため、福祉専門職が福祉的支援の必要性を

感じて、助言を求められなければ、この仕組みから外れる人が出るということもあります。

高齢者や障害を持つ受刑者の社会復帰を支援するため刑務所内に配置されている社会福祉士としても活動されている濱本耕司さん（京都社会福祉士会司法と福祉委員会委員長）は、入口支援で関わる初犯の人は、特別な人ではなく社会との縁が切れ、孤立状態になっていることが多いものの、それを除けばごく普通の人であると言います。孤立していることで生じる様々な要因から、罪を犯してしまうことが多いため、入口支援とともに地域に戻る際には居場所をつくる、孤立状態を解消するこ

とが重要になります。

また、支援のあり方として、現状の検察の段階や矯正施設内の支援以上に、逮捕・勾留された段階（警察の段階）で関わることが効果的で、そのためには、刑事司法と福祉の連携の仕組みをつくらなければならないと濱本さんはおっしゃいます。

矯正施設退所後の支援 「出口支援」

～地域生活定着支援センターの取り組み～

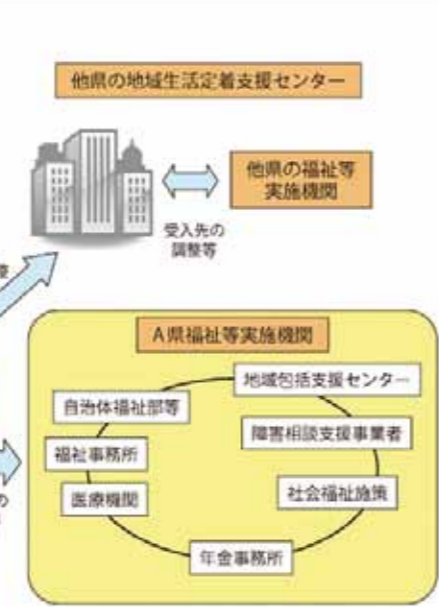
平成21年度から、高齢または障害によって福祉的な支援を必要とする矯正施設入所者を対象に、退所後に福祉サービスへつなげる等、地域で生活していく

ことを支援する「地域生活定着支援センター」（以下「センター」）が各都道府県に整備されており、京都府内には、社会福祉法人南山城学園が運営する「ふいっと」があります。

「ふいっと」の対象者は、高齢または障害があり、退所後の住居が無く、福祉サービス等の利用が必要な人です（特別調整対象者、図2）。センターでは、矯正施設を退所するまでの間に、

ニーズの把握、支援方法の検討、福祉的支援の具体化（要介護認定、障害者手帳の申請、サービスの利用申請、生活保護の申請等）を行い、退所後は受け入れ施設等に対するフォローアップや相談支援を行っています。

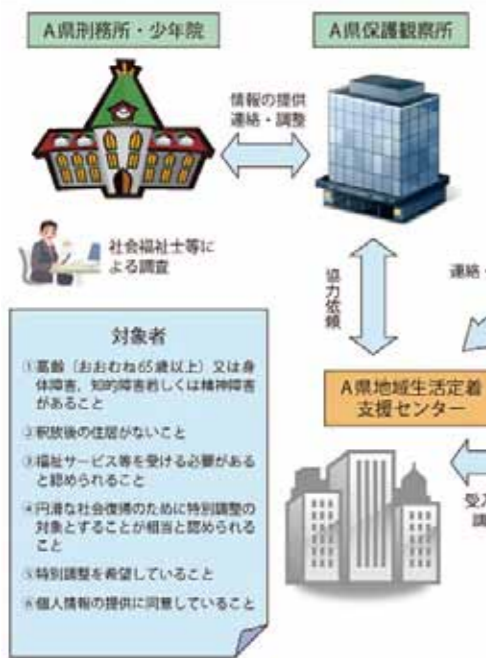
このセンターの取組状況



出展：犯罪白書平成24年版 注 法務省保護局の資料による。

【図2】地域生活定着支援センターの取り組み

特別調整の概念図



や課題について、「ふいっと」の小林センター長にお話を伺いました。支援に協力してもらえる施設等は、開業当初に比べて増え、障害特性や犯罪傾向によって難しいケース中にもありますが、ほぼ必要な支援先へつなぐことができているということです。一方で、特別調整対象者を支えるのは関係機関や専門職だけでは難しく、地域の関係者の理解を得ながら、対象者に寄り添って一つずつ解決していくしかないこと、対象者は、何かしらの生きづらさを抱え、どこかで支援が必要であった人たちで、犯罪者にとらえるのではなく、それぞれどこに支援が必要だったのか、今後どのような支援が必要かということを考えていかなければならないとおっしゃっていました。

矯正施設退所後の支援 「出口支援」

～更生保護施設の取り組み～

矯正施設退所後の支援について更生保護施設「盟親」の藤田守人補導主任と松平正守保護司にお話を伺いました。

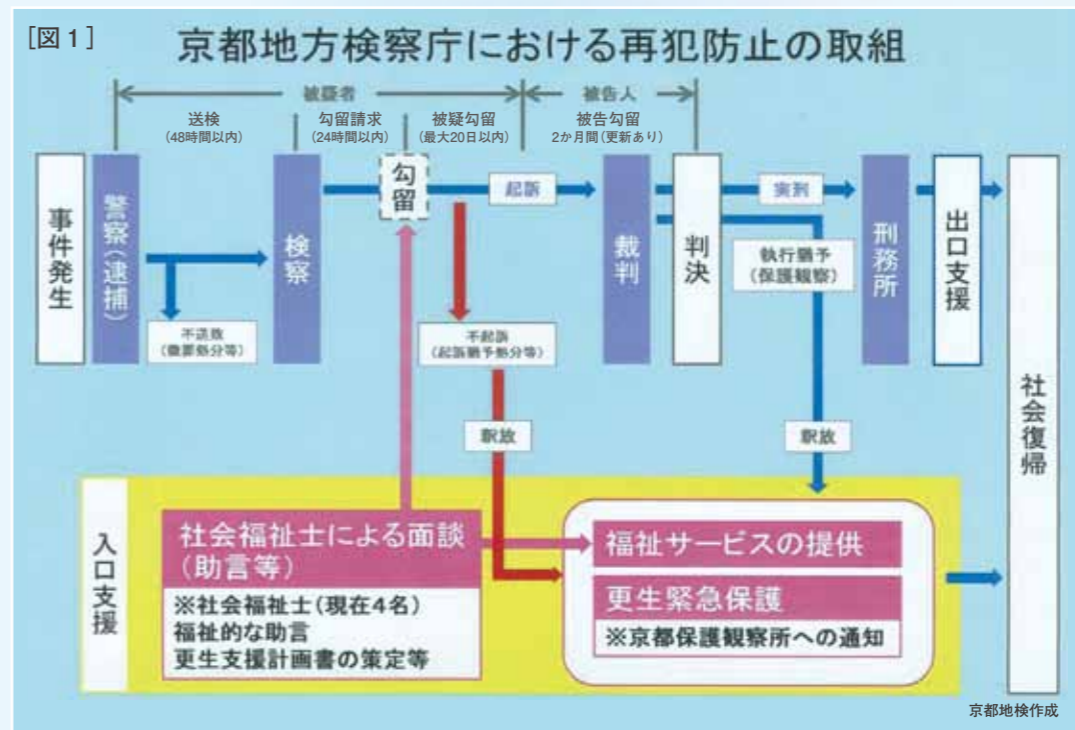
更生保護施設は、刑事施設などから釈放された人、保護観察を受けている人のうち頼る人がいない人たちに宿泊場所や食事を提供しつつ、就労をはじめとした社会復帰に必要な専門的な生活指導や社会生活・地域生活を送れるよう支援を行う施設です。元々は経済的自立を目指すことを中心に活動してきましたが、近年は福祉的な支援を含んだ活動が多くなっているそうです。

更生保護施設は「住み続けられるところではありません。そのため職員は退所後の自立に向け就労や住居の確保、心のケアなどの支援を行います。また、退所後も孤独を感じないよう気軽に来所することや電話相談を促したり、行事の案内を出すなどのフォローアップも行います。そうした取り組みでつなぐのを保つていくことが再犯を防ぐためにはとても重要だと二人は話されます。しかし、退所後施設とつながり続ける人は

まだまだ多くはなく、そこが退所者支援の難しさになっています。

切れ目のない支援を目指して

今回、司法と福祉の連携によって、様々な段階での支援が進んでいることがわかりました。一方で、法的・制度的な制約があるため、一貫した支援になりづらいこと、福祉的支援の対象に該当しない、支援を望まないために必要な支援につながない人がいることも見えてきました。矯正施設退所者等でも地域の中で安心して生活できるように、様々な制約を超えて、切れ目なく支援できる仕組みを関係機関が連携を深めながら、考えていく必要があります。また、矯正施設退所者等への支援には、地域社会の理解を広げていく必要があること、孤立を防ぐ取り組みが犯罪の抑止と再犯防止につながることを、生きづらさを抱えた人に寄り添った支援が必要であること等のお話も聞かせていただきました。今後、社会福祉協議会が生活困窮者支援や孤立を防ぐための居場所づくり、絆ネットによる見守り等に関係機関とともに取り組む中で、支援の輪を広げていくことが重要です。



京都地検作成

地域ニーズに
応えて
始まった

在日フィリピン人の

介護現場の就労支援

人材不足が挙げられている介護人材において、介護職員の処遇改善をはじめ様々な施策が行われています。その施策の1つとして外国人介護人材の受入環境整備が進められ、外国人の介護人材が今後増加していくことが見込まれます。しかし、対人援助サービスを主とする介護サービスにおいて、文化や習慣の違い等により、その受入を疑問視する声も少なくありません。今号では在日フィリピン人の就労支援に尽力してきた社会福祉法人成光苑「ライフ・ステージ舞夢」（舞鶴市）を取材しました。

事業所とこれまでの実績について

舞鶴市にある「ライフ・ステージ舞鶴」は平成20年度に開設された事業所です。法人本部は大阪にありますが、京都府内にも事業所があるため法人の地域貢献事業として、平成13年度より福知山市や舞鶴市において介護職員初任者研修（前身のホームヘルパー養成講座を含む）を実施されてきました。

ジュールを組んで、その受講者専用の実務者研修を実施されています。これまでに約100名もの在日外国人が修了し、その3分の1以上が同法人の施設に入職し、他の施設でも活躍されています。

「地域貢献」から始まった在日外国人の受け入れ

ライフ・ステージ舞夢の上野由香子施設長によると、在日フィリピン人の就労支援に力を入れているのは、人材確保が目的ではなく、地域で困っているマイノリティを助けることから始まったとのこと。 「もともと外国人の居住者が多い舞鶴



施設長 上野 由香子さん

市。その方々は日常生活が堪能で、日本語検定の上級修了者も少なくない。しかし、就業する場が限られているのが現状で、それが偏見に結びついていたり、自立した家庭生活の妨げになっていくという側面があった」と言われます。そこから「生きづらさを抱えている人たちを、同じ地域の仲間として見過ごせない」と上野施設長は決意されたそうです。そのため、日本人と同じ給与ベースで働ける場所を確保することが自立の

一歩となると考え、資格取得と就労支援を目指しています。

これまで開講していた研修において、平成15年から日本人の一般受講者とともに2人の在日フィリピン人を受け入れることから始められました。この研修では、在日外国人の方も日本人と同じテキストを使用します。研修のカリキュラムとは別に、漢字や福祉の専門用語、制度の理解などについてハンディがある場合も出てくるため、復習などを行うフォローアップ研修も事業所独自で行っています。平成20年度から名称を「つばみの会」とし、介護の日本語勉強会と介護福祉士受験対策講座を月に1度、開催されています。 「つ



田中 満貴さん

明るさやひたむきさが日本人職員にも刺激

現在「ライフ・ステージ舞夢」で正職員として働く在日フィリピン人の方は3名で、取材時に



原田 麻里さん

第1期生の原田麻里さんは、数年前に介護福祉士資格を取得されました。介護職員初任者研修を受けたきっかけは、日本人男性と結婚し、慣れない土地での生活を支えてくれた周囲の人たちへの感謝の気持ちだったと言います。「恩返し」から始まった介護の仕事は、いまや人生の一部になり、「利用者さんもスタッフも、みんな私の家族みたい」とやりがいを感じています。



坂根 アメリータさん

坂根アメリータさんは、原田さんに声をかけられ、研修受講に挑戦されました。「まさか自分が日本で福祉に携わるとは思っていなかった。でも、どん



嵯峨根 セシリアさん

どん仕事の幅が広がって、自分の成長を感じている」とお話しされながら笑顔を見せます。原田さんと坂根さんは、法人がフィリピンで実施する現地研修にも現地コーディネーターとして同行し、マーケティングやヒアリングを行うなど、今後外国人の方でこの業界に関わる方々への道標となるべく経験も積まれています。

日本人職員との相互理解を深める

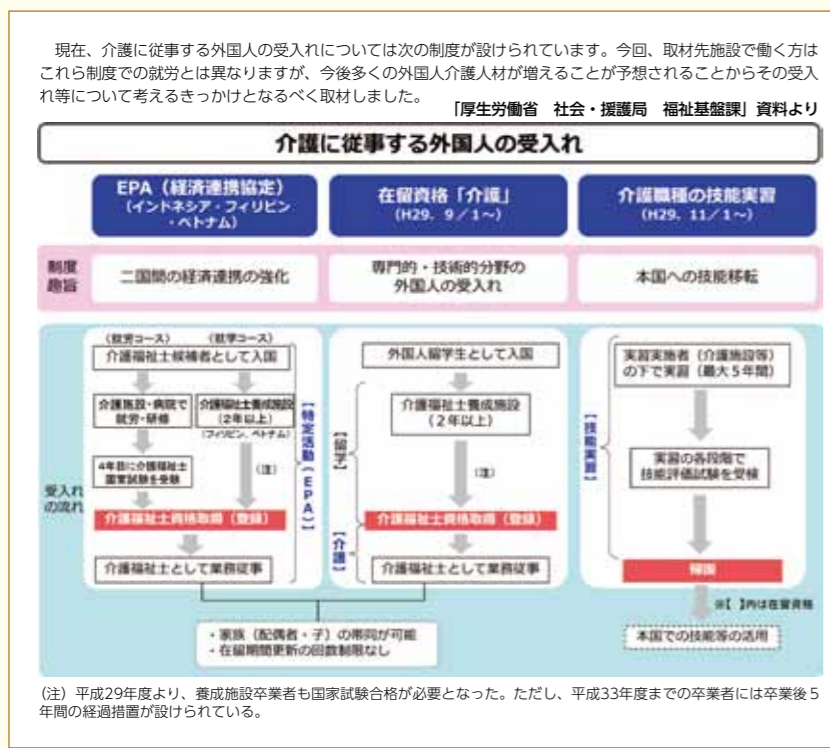
「ライフ・ステージ舞夢」の利用者の一人は、「料理が上手で、楽しい話も聞かせてくれる。一番頼りになる人たち」と笑顔を見せ、信頼を寄せています。また、同僚であるショートステイ主任の田中満貴さんも、積極的な仕事ぶりに、「私も含め、日本人職員はよい刺激を受けている」と話されました。

仕組みづくりを進めるなかで課題もありました。それは緊急時はもちろん、日々の業務で彼らをサポートする日本人職員の負担が多くなっていたことです。そのため、日報などの記録の記入は誰もが記入しやすいチェック方式に変更し、給与体系に関しても査定項目を細分化し、一定のレベルまで到達したら日本人職員と同じにすることを再考されました。「一緒に働く人たちの相互理解を深めることが大切だと学んだ」と上野施設長は振り返られました。

今後の大きな課題は介護福祉士資格取得制度の変更です。平成27年度より介護の実務経験に加えて、450時間の実務者研修の受講が必須とされたため

す。制度変更のため、在日フィリピン人にとっては、より一層ハードルが上がりが、「ただでさえ難しいのに無理かも」という諦めを感じる人もいるようです。しかし、上野施設長は「本人たちに少しでもやる気があるのなら、私たちは最後まで伴走する」と力強く述べられました。ライフ・ステージ舞夢では、今後も地域貢献事業の一環として、広報活動にも力を入れ、さ

さまざまな情報発信を行っていく計画です。そして、取り組みを「知ってもらおう」ことで、さらに地域や関係各所を巻き込みながら、在日フィリピン人リーダーを育成していきたいとしています。また、介護の人手確保だけを目的にするのではなく、施設、地域、在日外国人、そして職員の全てにとって良い仕組みを更に目指していきたいと語っておられました。



夢中! 熱中!
ふくしびと

だから続けたい この仕事

福祉の現場で働く人たちの熱い想い・メッセージを伝えるコーナーです。京都府内で“熱い福祉”を“夢中”で実践している方々にスポットをあてて、元氣や楽しさ、やりがいを“生”の声でお届けします。

永島 美里さん ながしま みさと

施設名 幼保連携型認定こども園 木津さくらの森
〒619-0223
京都府木津川市相楽台4丁目2番5
HP/URL : <http://www.ikuhokai.com/>
TEL./FAX.0774-71-4150 職種: 保育教諭
経験年数: 4年5ヵ月 ★好きな言葉: 一期一会
★今、夢中になっていること: ドライブ

子どもの成長を見守りながら、笑顔溢れる毎日を…



★仕事を始めたきっかけは？
私が小学生だった頃に、家の周りには小さい子ども達がいて、よく一緒に遊んでいました。その頃から将来は子ども達と触れ合える仕事に就きたいと思うようになりました。今の保育園は学生時代の実習先の姉妹園で、保育園や職場の雰囲気がとても温かく「ここで働きたい!」と思いました。

★仕事の内容とやりがいは？
子ども達の成長を促すことができ、日々職員同士で話し合い、よい環境を作り、見守っていることが私たちの仕事だと思っています。子ども達と過ごす中で、昨日できなかったことが今日にはできるようになったり、初めての言葉を発する瞬間を共に過ごせたりと日々子ども達の成長の感動があります。子どもが初めて私のことを

★今後の目標(抱負)は？
まだまだ「これでいいのかな…」と葛藤することもあります。これからも様々な経験を積み、職員同士での話し合いを密によりよい保育を行っていききたいと思っています。

★プライベートの過ごし方は？
旅行に行くことが好きなので、休みの日は遠出することも多いです。また友達とショッピングにもよく出掛けています。

名前を呼んでくれるようになった時は本当に嬉しかったです。そして、何よりパワーになるものは子ども達の「笑顔」です。子ども達の嬉しそうな顔や笑っている顔を見ると本当に「この仕事に就いて良かった」と心からの嬉しさややりがいを感じます。毎日子ども達と楽しさを共有しながら保育することを心掛けています。



保津町社会福祉協議会(亀岡市)

「お互いさま」
支え合いが広がる地域へ
「私たちの活動をもっと広げたいわ〜」



京都府社協では、今年度よりホームページ(HP)を通じて、京都府内25市町村の各地域で絆ネット(見守りネットワーク)に取り組んでいる団体の活動や住民主体の福祉活動の実践を府民の皆様にお届けしています。



男山B地区見守り隊(八幡市)

「私も活動してみたいけど、どんな活動があるんやろ?」「どこに困りごとを相談したら良いか、わからへん…」
そのようなみなさんの思いに伝えるべく、地域の活動を取材し、HPを通じて様々な団体の取組みを随時、紹介していきます!

詳しくはWEBで!

既に次の4団体の活動を紹介しています。今後も京都府内の市町村の活動をドンドンHPにアップしていきますので、お見逃しなく!!

- 地域住民に「橘中ノ楽」が広がることを目指して
取材先 福知山囲碁協会 (福知山市)
- 旅人さえもみんな家族、大家族宣言のまち
取材先 保津町社会福祉協議会 (亀岡市)
- あなたに合った、オーダーメイドな見守りを
取材先 男山B地区見守り隊 (八幡市)
- 頼って頼られる「お互い様」がある南加茂台
取材先 塚穴共助会 (木津川市)



塚穴共助会(木津川市)



福知山囲碁協会(福知山市)

京都府社会福祉協議会 からのお知らせ

寄付

ご寄付ありがとうございました

ご芳志の趣旨に沿い活用させていただきます。ありがとうございました。

平成30年8月24日に『株式会社エスアールエム』様より100,000円をご寄付いただきました。

全国・近畿各地の社会福祉協議会より、この間の地震や豪雨災害における支援活動に対し、ご寄付をいただきました。

案内

福祉資格者就業サポート研修のご案内

- 日時 11月15日(木)・19日(月)
10:00~16:00
11月20日(火) 10:00~16:30
- 会場 ハートピア京都
(地下鉄「丸太町」駅下車)

介護や福祉の仕事への就職・復職をサポートするための研修です。研修で最新の知識・技術を習得して、介護・福祉分野への第一歩を踏み出しましょう！

福祉職場 面接&相談会のご案内

- 日時 12月20日(木) 15:30~17:30
 - 会場 ハートピア京都 1F
- 府内の介護・福祉職場5法人が出展します。福祉の仕事に興味のある方ならどなたでもOK！ぜひご参加ください!!

- 同時開催
14:30~15:30 就職セミナー
18:00~20:00 施設職員との交流会
- 【問い合わせ先】 京都府福祉人材・研修センター TEL.075-252-6297**

近畿地域福祉学会 平成30年度大会

- テーマ 私たちの目指す「地域共生社会」
-実現への課題と展望を探る-
- 日時 平成30年12月8日(土)
10:00~17:00
- 会場 ひと・まち交流館京都
京都市下京区西木屋町通上ノ口
上の梅湊町83番地の1
京都市バス「河原町正面バス停前」
- 登壇者 猿渡洋子氏(男山B地区見守り隊)
橋川光一郎氏(京都老人福祉協会)
荒川博氏(都ハウジング)
小野恵以子氏(京都市社協)
平田義氏(社会福祉法人イエス団)
上野谷加代子氏(同志社大学)
所めぐみ氏(関西大学)

- 定員 200名
 - 参加費 会員・学生：500円
一般：1,000円
- ※開催要綱、申込書など詳細については、京都府社協HPをご覧ください。
(http://www.kyoshakyo.or.jp/event/post_51.html)
詳しくは QRコード



- 事務局
京都府社協
TEL:075-252-6294 FAX:075-252-6310
E-mail:chiiki@kyoshakyo.or.jp
京都市社協(参加申込先)
TEL:075-354-8732 FAX:075-354-8738
E-mail:commu@kcsww.jp

社会福祉施設オープン・デイのご案内

府民の皆さんに身近な社会福祉施設を知っていただく取り組みとして、「介護の日(11月11日)」及び「障害者週間(12月3日~9日)」にちなんで京都府内(京都市除く)社会福祉施設において『社会福祉施設オープン・デイ』を開催します。

実施施設は別添ホームページに一覧を掲載しています。皆さんのお越しをお待ちしています。

府社協HP Information

<http://www.kyoshakyo.or.jp/event/>

また、一般社団法人京都市老人福祉施設協議会では、「介護の日記念事業」として、「かいごみらいフェスinみやこめっせ」を実施されます。

- 日時 平成30年11月11日(日)
11:11~16:00
- 会場 京都市勧業館 みやこめっせ
1階 第2展示場(京都市左京区)

岡崎成勝寺町 9 番地の 1)
詳細は次のHPを参照ください。
<https://kyoto-srk.jp/>

- 「介護の日」とは、
介護について理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護家族を支援するとともに、利用者、家族、介護従事者、それらを取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進する観点から、高齢者や障害者等に対する介護に関し、国民への啓発を重点的に実施するための日”として、「11月11日」を「介護の日」と決めています。
- 「障害者週間」とは、
国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的として設定されました。

●本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。
<http://www.kyoshakyo.or.jp>



本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。

福祉事業を始めるなら

賠償責任保険は必須です!

福祉事業者総合補償制度

「まごころワイド」をおすすめします。

充実の賠償責任補償制度、
安価な傷害見舞金補償制度など
必要なプランを組み合わせてご加入いただけます。

福祉専門チームによる安心の事故対応

詳しい補償内容はこちらまで

福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合保険代理店 **SRM** 株式会社 エスアールエム

専用TEL **075-255-0883**

福祉の保険ホームページ www.srm-net.co.jp/smile.php

引受保険会社: 三井住友海上火災保険株式会社

この広告は保険の特典を説明したものです。
詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

ボランティア活動には「ボランティア保険」
イベントを開催される際には「福祉行事保険」も併せてご利用ください。